日本教育事務学会ニュース 第６号（2016年9月30日発行）

編集・発行　日本教育事務学会事務局　広報部長　北詰泰久（担当：広報部）

事務局　〒100-8951　東京都千代田区霞が関３-2-2　国立教育政策研究所内
E-mail：jasebm@jasebm.com
Web サイト（仮）：http://jasebm.sakura.ne.jp/wp/
Facebook：https://www.facebook.com/jebm.org

～第４回大会が１２月３日（土）に明星大学で開催されます～
大会での自由研究発表の申し込み受付中（～１０月７日）

【 目　次 】

１．会長あいさつ　・・・・・・・・　1
２．第３回研究集会報告　・・・・・　2
３．臨時総会報告　・・・・・・・・　8
４．第２回常任理事会報告　・・・・　9
５．常任理事紹介　・・・・・10
６．第３回常任理事会報告　・・・・・12
７．大会案内・自由研究発表募集・・・13
８．事務局からのお知らせ　・・・・・16

１．会長あいさつ

北神正行（国士舘大学）

会員の皆様におかれましては，ご健勝でご活躍のことと存じます。

前回の学会ニュースレターを発行して以降，今日に至るまでに４月の熊本大地震，８月，９月と相次いだ台風の上陸とそれに伴う豪雨による被害が発生しております。心からお見舞い申し上げるとともに，一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

さて，７月２日（土）に開催されました第３回研究集会では，全国から１１３名という大変多くの参加者を得て盛会のうちに終えることができました。日渡円会員をはじめ準備と運営に当たられた兵庫教育大学の皆様，兵庫県内，岡山県内の実行委員の方々，そして講師・報告者の皆様，参加された皆様に心から感謝申し上げます。

今回の研究集会は昨年の選挙で選出された新たな学会体制のもとでの開催でもあり，「チーム学校」をキーワードにその実践的形態の検討とそれを担う人材育成のための方法の検討という教育事務をめぐる今日的課題を研究と実践の両面から探究していくという学会運営方針のもとでの実りの多い研究集会になったのではないかと感じております。こうした方針は，来る１２月３日（土）に開催されることになった第４回大会に引き継がれ，「チーム学校の新たな展開」を大会テーマとしてプログラムを構築していくことが決定されました。

第４回大会は，樋口修資会員を大会実行委員長に，野川孝三会員と花岡萬之会員を大会実行副委員長のもと，６名の会員を加えた総勢９名の実行委員会を設置して，明星大学を会場に開催させていただくことになりました。

今後，学会ニュースレター等で第４回大会に向けてのご案内等を差し上げることになりますが，会員の皆様方におかれましては，大会の成功に向けてご協力をたまわりたく，また多くの皆様のご参加を心よりお待ちいたしておりますので，なにとぞよろしくお願い申し上げます。

２．第３回研究集会報告

○大会総括

大会実行委員長　日渡　円（兵庫教育大学）

日本教育事務学会第３回研究集会を，７月２日（土），兵庫教育大学ハーバーランドキャンパスを会場に，兵庫教育大学を中心に兵庫県内，岡山県内の会員が実行委員会を結成し開催しました。兵庫教育大学を会場とする研究集会は，第１回に引き続き２回目の開催となりました。全国から１１３名の参加があり盛会のうちに終えることができました。

研究集会は午前中に，研究推進委員会企画の「チーム学校の実態的発展方策と地域ユニット化への戦略～チーム学校と言われても～」と題して協議を行いました。午後からは，「学校運営をイノベートする次世代型リーダーの在り方～研修プログラムを素材として～」と題してシンポジウムを行いました。

今回の研究集会を通してのメッセージは，平成２６年７月の「これからの学校教育を担う教職員やチームとしての学校の在り方について」及び平成２７年４月「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方について」の二つの諮問を受けた，平成２７年１２月２１日の３答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」，「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」，「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の改善方策について」を受けたこれからの学校の在り方と教育事務の方向性を確認するものであったと言うことができます。

我が国における学校事務については，平成１０年の中教審以降，学校事務の共同実施，校務分掌における主任の任命促進，事務長制度，と充実と制度化が進められて来ましたが，学校や教育行政における注目，定着を促すものとはなってきていませんでした。今回の答申において，学校と地域の連携・協働とそれを担うチーム学校というキーワードが示す学校の方向性は，事務体制の強化なくしては実現できません。四半世紀近く言われてきて，定着の難しかった，学校や教育行

政におけるマネジメントが真に必要になるとともに，そのマネジメントの形も，内的マネジメントから外的マネジメントへと移行していくことが望まれます。

そのような中，今回，「チーム学校の実態的発展方策と地域ユニット化への戦略～チーム学校と言われても～」において，まさにこれからの学校に求められる形を現場の声を中心にイメージを持って具体的に議論する機会となりました。また，午後のシンポジウム 「学校運営をイノベートする次世代型リーダーの在り方」では，午前中にイメージしたこれからの学校をマネジメントするリーダー，学校教育をイノベートするリーダーを次世代型と位置づけ，次世代型にはこれまでと異なった能力も求められることを前提に，そのリーダーの研修の在り方は，知識伝達型ではなく，アクティブな能力養成型の研修が必要であることを体感できたことは意義があります。

第３回研究集会実行委員会は，参加された多くの会員に向けてタイムリーな話題を提供できたのではないかと思っています。そして，日本教育事務学会が今後も更に我が国の学校教育に貢献できることを願ってやみません。

研究集会概要

○日　時　2016 年 7 月 2 日（土）

○会　場　兵庫教育大学　神戸ハーバーランドキャンパス（兵庫県神戸市　1-501）

○参加費　2,500 円

○時　程

10:45～11:45	研究推進委員会企画 「チーム学校の実態的発展方策と地域ユニット化への戦略～チーム学校と言われても～」
11:45～12:00	臨時総会
12:00～13:00	昼食
13:00～15:00	研修会 「情報収集」テキストを使っての実際の研修
15:15～16:45	シンポジウム 「学校運営をイノベートする次世代型リーダーの在り方～研修プログラムを素材として～」

○研究推進委員会企画概要

川口有美子（公立鳥取環境大学）

今回の研究集会における企画は，第２期研究推進委員会として初めての活動であった。会場はほぼ満員であり，企画に対する会員の方々の関心の高さがうかがえた。今回，「『チーム学校』の実態的発展方策と地域ユニット化への戦略～チーム学校と言われても～」をテーマに掲げた。主題については，本委員会における３年間の研究テーマでもある。「チーム学校答申」が昨年 12 月に公表される前後より，「チーム学校」が様々に取りざたされ，一見，「チーム学校」は順調に進んでいるようにもみえるが，みながみな，順調なわけではなく，むしろ，掛け声倒れに終わる懸念や，困難を抱える学校も多いのではないか，という問題意識により，このたび，現場からの２つの報告を検討することとした。

第１報告として，学校事務職員である春日原彰子研究推進委員（山口県宇部市立西岐波

中学校）より，「家庭，地域との連携に関わって『チーム学校』へ第一歩！」として，勤務した３校のコミュニティ・スクールにおいて実践された地域連携の活動経過やそこからみえてきた課題などについて報告いただいた。例えば，地域の方々に積極的に学校へ関わってもらうために「熟議」の機会を設け，育てたい子ども像を共有したこと，「熟議」の成果は確実に記録に残して次につなげたこと，また，３校にはそれぞれの個別性があり，各校で「分析」を欠かさなかったこと，自身の主体性と管理職が「任せてくれた」ことで「思わぬよいこと」があり，結果，職務領域が広がり地域連携の発展に寄与できたことなどが報告された。一方で，校内の情報共有の難しさや毎年の人事異動によるチーム編成の難しさ，自身の予期せぬ異動に伴い，それまでの実績を引き継ぐことの難しさなど，「チーム」の維持にかかわる困難性についても指摘いただいた。

第２報告は学会員外にお願いし，田村穣校長（鳥取市立中ノ郷中学校）より，「チーム学校の必要性とその成果（エビデンス）―学校経営の立場から―」として，課題や負担の多い中学校現場において有効なマネジメントのありようについて報告をいただいた。例えば，会議の持ち方も含め，分掌や教科会の運営を改善・活性化することで学年・学級経営の負担は軽減できること，学校不適応や問題行動，特別支援といった困難性の高い課題については，学校で抱え込まず「パラサイト」し，外部機関との連携を図ること，力のある中堅若手女性教職員を核とした内部組織を編成したこと，その教員たちに県外を中心に実践成果発表や研修機会を与えた結果，校内の人材育成や組織力の向上に貢献できていることなど，「チーム中中（なかちゅう）」の現状が報告された。

企画は１時間というわずかな時間だったため，フロアーの方々との十分な協議はできなかったが，上記の報告を受けて，地域との連携で事務職員ができることは何か，会議を含め機能的な校内組織にするにはどうすればよいのか，避けられない教職員の異動と対峙しつつ「組織の記憶」はいかに担保されるのか，といったことが話題となった。

以上，大変興味深い報告と協議が行われたが，今後，本委員会ではこのたびの企画の成果をふまえて，さらなる研究課題を設定し，12 月の年次大会での企画につなげていきたい。

〇研修会概要

谷口史子（延岡市立旭中学校）

研究推進委員会では，平成２６年から２年間，「学校のリーダーとしての組織運営能力を向上させるための研修テキスト（事務職員用）」の開発を行ってきた。本テキストは能力開発型テキストとして開発したもので，考え方を学び，応用力を身に付けさせることをねらいとしている。従来型の研修の多くにあった「知識を身に付ける」ものではない。

リーダーには「現状をどう捉え」「どういった課題を設定し」「どんな方策を遂行するか」という「対課題面」の力が強く求められる。課題解決の質を高めるためには，「①情報収集」「②分析」「③構想」「④企画」「⑤実行」「⑥判断」という６つの力を高める必要がある。この考えを基に２年間で「①情報収集」「②分析」テキストを作成してきた。

今回の研究集会では，次世代型リーダーのあり方を模索するため「研修プログラム」を素材においたシンポジウムを実施している。そこにつながるものとして，テキストを使用した研修を模擬的に実施した。即ち，今回の研修実施は受講者として学ぶことが目的ではなく，研修を体験し，全体的なイメージを把握してもらうことにある。そのため演習時間や講義などを部分的に割愛し，実施している。講師はテキスト開発に関わった者の中から，日渡（兵庫教育大学），西井（松坂市立久保中学校），谷口（延岡市立旭中学校）の３名が務めた。概要は次のとおりである。

・７２名を６人のグループ編成とし，３教室で実施。
・学校事務職員，管理職・教員，教育委員会職員，大学教員など複数の職種が混在するように配置。これは，職種が混在することにより様々な考え方や気づきがあることを参加者に分かりやすくするためでもある。
・議論中心の「参加型」研修会であることから積極的な発言が必要であること，「正しい」「間違っている」を気にするのではなく「自分と何が違うのか」を重視すること，「自分の思考特徴を意識して内省すること」の３点を受講の留意点として押さえる。
・２つのケース演習を部分的に実施。
・ケース演習１は，「朝日南中学校（仮想）」のケース本文を読み，今後の組織としての取組を検討する。そのなかで，「これが問題だ」と認識すると，過去の経験や知識に基づき「解決策はこれだ」と考えていることに気づく。さらに，その解決策も個人の強みである経験などに影響を受けていることにも気づく。
・ケース演習２では，現状を把握するためにどんな情報が必要かを考える。その中で，情報収集に偏りなどがあることに気づく。

全体を通して，参加者から「職種が違うと，気づきも違うことがよく分かった」「自分の考え方には，偏りや，くせがあることが分かった」「知らず知らずのうちに，狭い範囲の中で考えていることが分かった」などの感想が聞かれた。このような声から，本研修テキストの意義について，理解を深めることができ，次世代型リーダーのあり方及びその育成に適した研修を考える一助になったのではないかと考える。

○シンポジウム概要

北神正行（国士舘大学）

第３回研究集会でのシンポジウムは，15時15分から16時40分の時間，「学校運営をイノベートする次世代型リーダーの在り方－研修プログラムを素材として－」というタイトルで実施された。この企画は，前研究推進委員会が作成した研修テキストを実際に使ってのプログラムを受けて行われたものであり，シンポジウム参加者は，13時から15時にかけて実施された研修会（「情報収集」テキストを使っての実際の研修）の企画者，実施者，受講者そして見学者であった。

まず，今回のシンポジウムの企画者であり，前研究推進委員会委員長の兵庫教育大学院の日渡　円氏からシンポジウムの趣旨とあわせてこれからのリーダーに必要となる力とその育成方法（研修のあり方）について，シンポジウム前に実施された研修会の意図や内容について報告がなされた。そこでは，リーダーとは教員のパフォーマンス（教育の成果）をあげるために必要な支援や行動をとることができる人であり，管理職とともに事務職員もリーダーであるとの位置づけのもとで，その行動を起こさせるために必要な研修を開発したという説明がなされた。特に，リーダーに必要な行動の質は，それを判断する知識によって決定づけられるが，その知識は個人の経験・学習に依存しており，それを克服し，行動の質を高めていくためには応用力が求められるとし，その応用力を育成していくための研修内容・方法としてケース素材をもとにしたグループ学習が有効であるという報告がなされた。

続いて，三重県松阪市立久保中学校総括主幹の西井　直子氏は，前研究推進委員会の委員として研修プログラムの開発に当たられた立場，そして今回の研修会の研修講師という立場から，テキストの成果としてマネジメントの出発点である「現状把握」（目標設定）に伴う偏りを防ぐことにあるという報告がなされた。現在，学校で行われている現状把握には，個人の経験・学習による「偏り」や「限定性」が存在し，それらに気づくための情報把握の重要性が報告された。特に，多様なものの見方，考え方が重要性であり，そのプロセスを通しての自己の振り返りを促す研修の必要性が指摘された。

そして，最後に文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課課長補佐の北野　允氏からは，研修会を参観した立場，そして「チーム学校」を中心とした教育政策動向を踏まえた立場として事務職員への企画・立案力への期待を込めた報告がなされた。その中で，学校の組織目標である学校教育目標がほとんど変わらない実態を指摘し，その原因としての現状分析の不十分さやマネジメントに係わる学校組織全体を見る眼，全体を見る眼を持つことの重要性が指摘された。学校現場の裁量性の拡大のもと，これからのリーダーに求める専門性の向上に向けて学会

へのエールも送っていただいた報告であった。

こうした３人のシンポジストの報告を受け，また会場との意見交換・協議を踏まえ，今後も学会としてさらなる専門性の向上に向けた研修プログラムの開発や研修手法の開発等に取り組んでいく必要性があるとのまとめがなされた。

〇参加者からの声　－－－－－　大会参加者から感想をいただきました

・吉村由巳（愛媛県教育委員会南予教育事務所）

梅雨明けを思わせるような，夏の神戸にて開催されました日本教育事務学会第３回研究集会に一会員として参加しました。貴重な研究実践報告やテキストを使っての研修体験，シンポジウム，さらに懇親会と充実した一日でした。ありがとうございました。

私が研究集会の案内を拝見してまず心ひかれたのは，「～チーム学校と言われても～」と書かれた研究推進委員会企画のサブタイトルでした。

チームとして諸課題に取り組むことが重要であることは理解していましたが，勉強不足もあり，具体的取組みについて何かしらヒントをいただけるのではないか，との思いで参加しました。そのような中，大変印象的であったのが，「とにかく関わる」，「とにかく動いてみる」と言われた報告者お二人の言葉です。今年度の異動により学校現場から離れてしまいましたが，今の自分の立場でできることにまずは関わってみようとする姿勢を大切にしたいと改めて思いました。

懇親会には飛び入り参加で受付担当の方に御迷惑をおかけし申し訳なかったのですが，全国各地の様々な立場の方々とお話しさせていただきおいしい料理とともに楽しいひとときを過ごしました。12 月の大会も楽しみにしています。

・谷内口良克（石川県輪島市立輪島中学校）

「もったいないなぁ…」というのが，私の第３回研究集会へ参加して感じた印象です。何がもったいないって，皆さんもっと質問したり意見を言ったりすれば良いのにねって。

せっかく勉強に来ているのだし，手ぶらで帰るのはもったいない！コミュニティスクールも共同実施も職務標準も省令事務長も無い能登半島の田舎から出てきて，発表するような実践は無いけれど，必ず何か吸収してやるぞ！と思っていました。

今回の研究推進委員会企画では，臆面もなく鳥取市の田村校長先生に質問させていただきましたが，日頃から学校現場で疑問に思っていたことを他県の校長先生の視点で聞けるまたとない機会で嬉しかったです。

本学会のように研究者と学校現場との間がこんなに近い場所って無いのではないでしょうか。私たち現場の人間が垣根を越えて活発な意見交換や議論を展開していけば，本学会が大きく盛り上がって行くのだろうと期待しています。

・大松正江（兵庫県立芦屋特別支援学校）

昨年より兵庫県立学校事務長会自主研究グループでは「チーム学校を先導する事務室機能について」を研究しており，グループの代表者である西村武男氏が日本教育事務学会の会員というご縁で今回の研究集会に参加させていただきました。

山口県宇部市立西岐波中学校，鳥取県鳥取市立中ノ郷中学校の報告は事務主任，校長それぞれの立場から「チーム学校」の在り方や必要性，その成果について述べられており，非常に興味深く，私たちが今まさに研究していることに大変参考になるものでした。

恥ずかしながら私は「日本教育事務学会」というお名前を今回初めて伺いました。藤原文雄先生，日渡円先生のお名前はかねがね存じ上げておりましたが，両先生と会場で初めてご挨拶できる機会を得られたこと，そして研究報告の内容もさることながら，県外の遠いところから参加された方がたくさんおられ，熱心な会員の方々に刺激をうけました。貴重な機会をありがとうございました。

・諏訪英広（兵庫教育大学）

実行委員及び研究者の立場から感想を述べたい。全体の感想として，いずれの会場も，“学びたい”“何かを自校に持ち帰りたい”といった学会内外の参加者の熱気に満ち溢れていた。研究推進委員会企画では，「チーム学校」がテーマであったが，「チーム学校と言われても」をサブタイトルとし，刺激的な問いと議論が展開された。「チーム学校なるイメージらしき」ものは誰かが，どこかが提示するだろうが，それをそのまま各学校に当てはめるには無理がある。参加者は，所属校の特性等を踏まえ，構成員一人一人が主体的かつ協働的に思考し，実践する他ないことを感じ取ったのではないか。研修会では，次世代型リーダーの在り方の一端として「情報収集」の演習が実施された。「知っている」「情報を持っている」つもりの根拠や認識の危うさを自覚し，広範かつ正確な情報を収集することの重要性を感じ取ったのではないか。シンポジウムは，前記二つの企画を踏まえた非常に活発な議論が展開された。参加者が所属校・自治体に戻り，学び得た「個人知」を「組織知」に発展すべく，主体的・協働的に実践推進を図るであろうと強く期待される集会であった。

３．臨時総会報告

日本教育事務学会臨時総会が，平成 28 年 7 月 2 日（土），兵庫教育大学（神戸ハーバーランドキャンパス）で開催された。（総議決権数 323 のうち，出席者 66 名，議決権委任者 103 名，計 169 名により総会成立）足立慎一会員・樋口桂子会員が議長を務め，議案審議

が進められた。
【審議事項】「会長指名理事について」
　藤原事務局長より，会則第 7 条により会長指名理事として日本大学の佐藤晴雄会員及び日本教育新聞社の矢吹正徳会員を選出したい旨提案され，賛成多数により可決された。

４．2016 年度　第２回常任理事会報告

日　時：2016 年 7 月 2 日(土)12:00～13:00
場　所：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス　演習室 4
出席者：北神正行（会長），木岡一明，雲尾周，大天真由美，花岡萬之，日渡円，
　　藤原文雄，堀井啓幸，（欠席者：樋口修資）

【 報告事項 】
（１）会長指名理事について
　藤原事務局長より，臨時総会において会長指名理事の承認が得られたことが報告された。

（２）研究推進委員会
　雲尾研究推進委員会委員長より，委員会にて褒章規定の整備を進めていることが報告され，今後，整理・検討し，9 月の常任理事会にて改めて提案することが確認された。

【 審議事項 】
（１）年報編集委員会
　堀井年報編集委員会委員長より，委員会規程の改正及び「実践レポート」枠の設置について提案された。今後委員会で議論し，再度，常任理事会で提案することが確認された。

（２）次期大会・研究集会開催校について
　花岡常任理事より，次期研究大会について明星大学を会場として開催されることが提案され承認され，実行委員長を樋口常任理事にお願いすることが報告された。また 2017 年度以降の研究大会等の会場候補について協議が行われ，常任理事会内で共通理解を持ち対処していくことが確認された。

（３）会員状況について
　石井事務局員より，２名の退会者と４名の入会希望者についての報告がされ全員が承認され会員数が 325 名となった。

５．常任理事紹介　----- 常任理事の皆さんから，「ひとこと」いただきました

○木岡　一明（名城大学）

わたしが，国立教育政策研究所に勤めていた当時，高等教育研究部に属する総括研究官であった。その職に対する設置法に定められた職務規定は，「高等教育政策に資する研究に関する事務に従事する」であった。ということは，「研究に関する事務」とは，法令上，「研究に関すること」の意味でしかなく，したがって，その「事務」には無限の可能性がある。この学会で，「教育に関する事務」の無限の可能性をぜひ追求していきたいと考えている。

○雲尾　周（新潟大学）

大学１回生の時に「教育行政研究会」というサークルに入って以来，ずっと教育行政学を根底に，学校経営・教育制度，生涯学習行政，教育事務研究などを展開しています。なぜならば，「教育行政は教育の条件整備の学問」であるからです。教員養成や研修，教育財務，施設設備の安全点検など，すべて「教育の条件整備」です。今はそれを発展させ，学校づくりは地域づくり，どんな地域に住みたいか，を共通の目標に置く試みを進めています。

○佐藤晴雄（日本大学）

元々は社会教育主事として教育委員会に勤務しておりました。現在は日本大学文理学部に所属し，学校・地域連携，コミュニティ・スクールを研究対象にしています。昨年 12 月にまとめられた中教審答申「新しい時代の教育や地方創生」に関しては，専門委員として作業部会に加わりました。コミュニティ・スクールと学校事務の関係を探っていきたいと思います。学会の発展に寄与したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○大天真由美（美咲町立加美小学校）

実践的研究者と呼ばれる学校事務職員の強みは，地域や保護者とともに，常に子どもの成長を実感できる教育の最前線にいること。教育課題を世界レベルの視点でとらえ，研究を重ねている職業的研究者とパートナーシップを結び，システムや法整備など，しくみを変える動きにつなげていくことで，教育現場で成果が得られるという構図になるのだろう。このわくわく感を今後も持続できるだけの魅力が，本学会に詰まっていると確信している。さて，最後に，今，猛烈に欲しいのは……「どこでもドア」。

○花岡萬之（学事出版株式会社）

私は東京大学教育学部教育行政学科の出身で，主任教授が持田栄一先生でした。先生は教育行財政学を担当され，その一環として学校事務論も教えていただきました。学事出版の「学校事務」誌にもしばしば寄稿され，その縁で学事出版に入社しました。「学校事務」から２文字をとって誕生したのが学事出版という由縁もあり，学校事務という土壌を耕し

豊かにすべく本学会を立ち上げに参加させていただきました。よろしくお願いいたします。

○樋口修資（明星大学）

明星大学教育学部の教員として，日々，初等教育を中心に教員養成の仕事に携わっております。今年度から科研費をいただき「多忙化縮減をめざす学校と支援スタッフの連携協力の在り方に関する調査研究」を行っています。「チーム学校」の実現が求められる中で，教職員がそれぞれどのような役割と責任を分かち合い，協力していくのか，また，外部の支援スタッフとの連携協力をどう図っていくのか等について研究を進めています。

○日渡　円（兵庫教育大学）

常任理事２期目です。兵庫教育大学での第１回，第３回の研究集会にはたくさんの会員の参加をいただきありがとうございました。昨今の中教審答申や諸政策・施策を見ると，教育事務の世界は大転換期を迎えていると言っても過言ではありません。当学会への期待が高まるとともに，会員の皆様の力そのものがこれからの教育に大きな影響を与えると思います。私も微力ですが努力したいと思います。

○藤原文雄（国立教育政策研究所）

常任理事とともに，事務局長を仰せつかっております。本学会は，多様な分野の会員が，それぞれの持ち味を生かして研究を進めることによって，教育を良くするために作られた新しいコンセプトの学会です。幅広い方に参加していただけるよう，学会の発展に少しでも貢献できるよう微力ではありますが，尽力いたします。どうぞよろしくお願いします。

○堀井啓幸（常葉大学）「要としての役割」

現在，コミュニティ・スクール，小中一貫教育，いじめ対策などの委員会や中学校建築に関わっています。学校事務職員の方々に学校唯一の行政職員としてだけでなく，地域と学校を結ぶ要として活躍していただきたいと思うことが少なくありません。すでにコミュニティ・スクールのコーディネーターとして活躍されている方もおられます。一人職としての多忙を超えてやりがいのある役割をみつけられましたら年報にも是非ご投稿ください。

○矢吹正徳（日本教育新聞社）

会長指名の常任理事になりました。昨年大会ではシンポジウムのコーディネーターとして，ご協力を頂きました。合わせて，選挙管理委員会委員長役も引き受けさせていただき，こちらも多大なご協力を頂きました。感謝いたします。財務省が大蔵省だった頃，「国庫負担」対象から学校事務職員を外すという〝アドバルーン記事〟が出るたび，社への問い合わせ対応をしたのが学校事務職員との出合いです。引き続きよろしくお願いいたします。

６．2016 年度　第３回常任理事会報告

日　時：2016 年 9 月 11 日（日）10:00～12:20
場　所；学事出版　会議室
出席者：北神正行（会長），木岡一明，雲尾周，大天真由美，花岡萬之，樋口修資，
　　藤原文雄，堀井啓幸，矢吹正徳，（欠席：佐藤晴雄，日渡円）

【　報告事項　】
（１）第３回研究集会報告
日渡研究集会実行委員長の代理として藤原事務局長より，第３回研究集会が７月２日に兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパスで行われ，参加者は１１３名であったことが報告された。

（２）年報編集委員会報告
堀井年報編集委員長より，学会年報第３号の投稿論文について研究論文１本，研究ノート１本の投稿があったことが報告された。

（３）研究推進委員会報告
雲尾研究推進委員長より，第１回研究推進委員会の内容として，今後の研究計画について，及び次回大会での外部報告者招聘について報告された。

【　審議事項　】
（１）会員状況について
大天副事務局長より会員数は現在 325 名であり，３名の新規入会希望者が報告され，全員の入会が承認された。また，藤原事務局長より地区選出理事の他ブロックへの異動が報告され，対応についての流れが確認された。

（２）３年間の活動方針・地域担当理事指名について
北神会長より３年間の活動方針案が示された。創設時の基本方針が再確認され，３年間の重点取り組みについて説明があった。各地域の中心となる地域担当理事と併せて１２月の総会において説明を行うことが確認された。

（３）第４回大会の開催について
樋口実行委員長より第４回大会の説明があり，内容について協議が行われた。今後，開催案内と自由研究発表の募集を行うことが承認され，大会申込みは 10 月中旬から開始することが確認された。

（４）年報編集委員会より

堀井年報編集委員長より，委員会内で行った年報投稿対策について報告がされ，年報編集委員会規定の改正については理事会承認後，総会で報告することが承認された。また投稿規定の改正が承認された。

（５）研究推進委員会より

雲尾研究推進委員長より，学会褒賞規定の内規案等について提案があり，推薦について会員へ依頼することが承認された。

（６）第４回大会総会議題について

北神会長より，第４回総会議案書案が提示され承認された。

（７）事務局より

大天副事務局長より，学会名簿を９月末に発行予定であることが報告された。北詰広報部長より，ニュースレターを第６号より学会 Web へ掲載することで発行に代えることが提案され承認された。

【第４回大会までのスケジュール】

月　日	活　　動	月　日	活　　動
9 月末日	会員名簿発行	11 月 12 日(土)	会計監査・事務局会議
	ニュースレターWeb 掲載	12 月　2 日(金)	理事会（明星大学）
10 月末日	会計締め切り	12 月　3 日(土)	第 4 回大会（明星大学）

７．第 4 回大会及び自由研究発表募集について

大会実行委員長　樋口修資

日本教育事務学会第４回大会をきたる 12 月３日〔土〕明星大学を会場に開催させていただくこととなりました。第４回大会では，「チーム学校の実現と新しい学校の組織・運営の在り方」をテーマにプログラムを構成することになりました。その詳細は 10 月中旬に改めてお知らせできる予定ですが，プログラム編成に先立って会員による「自由研究発表」を募集いたします。発表を希望される会員におかれましては，下記の要領で大会実行委員会までお申し込み下さい。

発表日時　2016 年 12 月 3 日（土）午前 9 時から 11 時 50 分のあいだ
発表資格　大会当日において本学会の会員であること

発表時間　30 分（質疑応答を含む）
＊会員複数による共同研究発表も 30 分間とします。
発表申込　メール件名を「自由研究発表・申込者氏名」として，※１の事項をメール本文に記載した電子メールを※２，大会実行委員会・花岡萬之までお送り下さい。
申し込み締め切り　１０月７日（金）必着

（※１：下記１～４を記載願います）
１　発表者氏名（所属）
＊　共同研究の場合は全員の氏名（所属）を記し，口頭発表者の氏名の前に○を付して下さい。
＊　大学院生の場合は「所属・院生」と記して下さい。
例：花岡萬之（東京大学大学院・院生）
２　発表題目
３　発表時に使用を希望する機器
＊　用意できない機器があった場合には連絡させていただきます。
４　連絡先（共同研究の場合は発表責任者一名の連絡先）
・住所　・電話
・電子メールアドレス（添付ファイルの受信に制約の強いアドレスは避けて下さい。）

（※２）
申込み先メールアドレス　hanaoka@gakuji.co.jp

＊　申込みをいただいた方には，10 月 7 日以後，確認のメールを差し上げます。申込み後，10 月 14 日（金）までに確認のメールが届かない場合は改めてメールまたはお電話をお願いします。
＊　なお電子メールを使用されない会員の申込みは郵送で受け付けます。上記の事項を任意の用紙に記載し，次の住所に 10 月 7 日（金）必着で郵送して下さい。
郵送用住所　101-0021　東京都千代田区外神田２－２－３
学事出版（株）　花岡萬之
電話：03-3255-5473　ＦＡＸ：03-5256-0538

＊　自由研究発表を申し込まれた会員は，発表要旨原稿作成要領（学会Ｗｅｂ参照）に，したがって原稿を作成し，大会実行委員会花岡萬之宛に提出してください。
要旨原稿の提出期限は，11 月 4 日（金）（必着）です。

＊　申込みに先立ってのお問い合わせなども，上記のアドレスで随時受け付けております。多くの会員からの申込みをお待ちしております。

【第４回大会の概要】（現時点での概要です。学会Ｗｅｂでも，ご確認ください。）

〇主　　催：日本教育事務学会第４回大会実行委員会
　　実行委員長　　樋口修資（明星大学）
　　副実行委員長　野川孝三（教育文化総合研究所）
　　花岡萬之（学事出版）

〇大会日程：2016 年 12 月 3 日（土）

〇会　　場：明星大学日野校「28 号館」（東京都日野市程久保 2-1-1）

〇参加申込：10 月中旬（予定）より，Ｗｅｂ上で参加申込を受け付けます。
　　当日参加も可能ですが事前申し込みをお願いいたします。

〇大会スケジュール

８：３０～　９：００	大会受付・学会受付
９：００～１１：５０	自由研究発表
１１：５０～１２：４０	昼食
１２：５０～１３：５０	総会
１４：００～１５：００	講演「『チーム学校』の推進」（仮題） 前川喜平・文部科学事務次官
１５：１０～１６：２０	分科会「『チーム学校』に学校事務はどう関わるか」 （第 1～３分科会構成）
１６：２０～１６：５０	分科会報告と総括討議
１７：００～１９：００	懇親会

〇参加費等：

大会参加費	正会員・臨時会員	3,000 円
	学生等会員	2,000 円
懇親会費	一律	4,000 円

８．事務局からのお知らせ

（１）会員情報管理に伴う確認のお願い

事務局では会員相互の交流に資するため，会員名簿を発行しておりますが，正確な会員情報を把握する必要があるため，届出事項の異動時や「公開の許諾」に変更のある方は，必ず，学会 Web 上の様式「登録事項変更届」に記入の上，事務局（名簿管理担当）までメール添付にて送付願います。

（２）会費の納入について

2016 年度（2015 年 12 月～2016 年 11 月）の会費について，納入確認が済んでいない会員の方へは，１０月初旬の学会名簿送付時に会費振込用紙を同封させていただきますので，振り込みにつきまして，どうぞよろしくお願いいたします。

また，本学会の新年度（2017 年度）は１２月の定期総会より始まりますので，大会当日の受付にて新年度会費（5000 円）を徴収させていただきますことをご了承ください。

（３）Web，Facebook 閲覧とメールの確認について

最新の学会情報は，学会 Web，Facebook 及び学会メールでご確認ください。学会 Web では大会のお知らせ等も順次更新しています。

【寄贈図書紹介】

・川前あゆみ・玉井康之・二宮信一編著『アラスカと北海道のへき地教育』北樹出版（2016 年）

・柳澤靖明著『本当の学校事務の話をしよう』太郎次郎社エディタス（2016 年）

＊学会への寄贈図書は事務局まで郵送でお送りください。

（神戸ﾊｰﾊﾞｰﾗﾝﾄﾞｷｬﾝﾊﾟｽ前にて）